

市大病院情報誌



そよ風

Smile! / Service! / Science! 笑顔の大学病院を目指しています



Contents

2018年9月
第33号

- ▶ 「治療と仕事の両立支援」について
- ▶ 当院での不妊治療について
- ▶ 泌尿器科にて進む、ロボット支援手術
- ▶ 食道アカラシアに対する新しい内視鏡治療
- ▶ 手術だけじゃない、矯正療法でなおす小児先天異常
- ▶ 心不全患者さまは筋肉量の維持が重要です
- ▶ ロボット支援心臓手術はじまる！
- ▶ 院内学級のご紹介と心肺蘇生講習会
- ▶ 認定看護師の活動について
- ▶ 院内イベント情報

診療科紹介 総合診療センター

「治療と仕事の両立支援」について

当院は国の地域がん診療連携拠点病院に指定されています。当院のがん相談支援センターでは、がんの患者さまやご家族からの相談を相談員（看護師・社会福祉士）がお受けしています。治療と仕事の両立についての相談も増加しており、当院では大阪産業保健総合支援センター（以下、産保センター）と連携し「治療と仕事の両立支援」を平成30年4月から始めました。産保センターの両立支援促進員が月1回、当院にて相談を受けています。ぜひ、日々のがん相談と併せてご活用ください。



がん相談支援センター相談員

産保センターの両立支援促進員による相談について

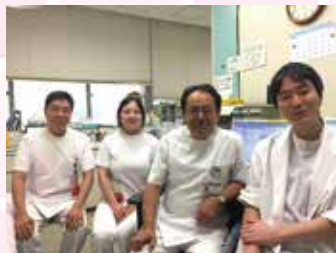
毎月 第3月曜日 13:00~16:00 (予約制・無料)

予約・問合せ先: 当院1階医療相談①番窓口 06-6645-2725

当院での不妊治療について

近年、晩婚化の加速とともに不妊治療のニーズは増加傾向にあります。夫婦の約15%が実際に不妊検査や治療を受けていると言われており、それに応じて不妊治療を専門とするクリニックも増加してきています。専門クリニックでは、体外受精・胚移植や顕微受精といった生殖補助医療（ART）を行っていることが多いのですが、当科では手術を要する疾患を中心に、近隣の不妊ART専門クリニックと連携を取りながら治療を行っています。

当科での手術のほとんどは、低侵襲（患者さまの体への負担をできるだけ少なくする）な腹腔鏡下または子宮鏡下で行っており、術後の早期回復に努め、速やかに不妊治療を継続できるようにしています。不妊症の原因となる子宮内膜症や子宮筋腫、骨盤内癒着などに対しては摘出術や剥離術を行い、卵管留水症（卵管に水が溜まり妊娠の妨げになる）に対しては卵管開口術を行って自然妊娠を可能にするといった手術を主に行っています。



女性診療科へお気軽にお越し下さい

その他、不妊症とは関連のない女性内分泌疾患の治療にも取り組んでいます。また、抗がん剤・放射線治療の影響や、膠原病、糖尿病、精神疾患など他の病気に随伴する卵巣機能不全症、更年期障害、思春期の無月経などの治療も行っております。

不妊症や様々な女性特有の疾患でお悩みの方は、ぜひ一度ご相談ください。

(女性診療科)

泌尿器科にて進む、ロボット支援手術

今年4月、新たに12の術式がロボット手術として保険収載されました。

泌尿器科の対象としては、2012年より前立腺癌に対する前立腺全摘除術に保険適応が認められ、2016年には腎部分切除術が保険収載されました。今回は3つ目の保険術式として、膀胱癌の治療であるロボット支援下膀胱全摘除術が保険収載されました。この術式は、すでに大阪市立大学泌尿器科でも開始しており、良好な成績を収めています。

大阪市立大学泌尿器科では2014年にロボット支援手術を開始し、これまで350例以上のロボット支援手術の実績があり、経験豊富な医師がそろっています。当院での治療をお考えの方は泌尿器科外来（担当医 山崎：火曜日、金曜日）までご相談ください。（泌尿器科）



食道アカラシアに対する新しい内視鏡治療 経口内視鏡的筋層切開術 (POEM)



Inoue H. J Am Coll Surg.
2015 より引用、写真は当院
でPOEMを行った症例

食道アカラシアは、食道の出口の筋肉が緩まず開きにくくなり、飲食物の通過が障害され、つかえ感、嘔吐、胸痛などを症状とする疾患です。薬物治療、バルーン拡張術、外科手術などの治療法がありますが、経口内視鏡的筋層切開術 (POEM) は、胃カメラで食道の筋肉を切開する新しい治療法で、体表に傷をつけず治療できるため身体の負担が少なく、最も効果が高いとされていた外科手術と同等以上の治療効果が期待できます。当院では、2018年1月よりPOEMを導入しています。

POEM導入には高度な技術や施設基準を要するため、国内で実施できる施設は限られており、現在、大阪では当院のみです。食道アカラシアの専門外来も開設しておりますので、食道アカラシアと診断された方や、これらの疾患と思われる症状でお悩みの方は、当科へご相談ください。



POEMにより食道の拡張
やバリウムの胃への流出
が改善しています

(消化器内科)

手術だけじゃない、矯正療法でなおす小児先天異常

大阪市立大学形成外科では、小児先天異常の治療にも積極的に取り組んでおります。対象疾患の多くは手術加療を要しますが、なかには手術を行わずに良好な治療結果を得られる疾患もあります。今回は、その一例をご紹介します。

体表の先天異常のなかでも、耳介に関するものは矯正療法による治療を選択することが多くなっています。新生児期の耳介軟骨は非常に可塑性（外から力を加えたとき、力を取り去っても元に戻らない性質）に富んでいますが、その可塑性は成長と共に徐々に減少していき、最終的に形態変化を起こさない固定した軟骨となります。矯正療法は、この可塑性を利用し、侵襲（ダメージ）を与えることなく形態改善が得られる治療法です。

ただし矯正療法に適した時期を過ぎると、その効果は得られにくくなるため、できるだけ早いタイミングで治療を開始する必要があります。耳の形が異常かもしれないとご心配の場合は、ぜひ当科を受診ください。（形成外科）



心不全患者さまは筋肉量の維持が重要です

心不全とは心臓が悪いために息切れやむくみが起こり、だんだん悪くなり生命を縮める病気です。心不全患者さまは、病気の経過とともに筋肉量が減少し筋力が低下していきます。このよう

な状態はサルコペニアと呼ばれ、サルコペニアがあると心不全患者さまの病気の経過が悪くなることがわかっています。当院リハビリテーション室では心不全患者さまに対してサイクリングなどの有酸素運動に加えて、筋肉量を維持するためのレジスタンス運動も積極的に行っています。筋肉量を維持するとなぜ良いのでしょうか？ 私たちは「心臓を守ってくれるホルモンが筋肉から放出されているのでは？」と考えており、そのホルモンを見つけ出す研究を進めています。(循環器内科 柴田敦 泉家康宏 葭山稔)



筋肉量を維持するためのレジスタンス運動



医師と理学療法士の指導の下、行われます

ロボット支援心臓手術 はじまる!

心臓手術は、従来、大きく胸を開けて手術をしてきました(胸骨正中切開)。最近、弁膜症手術においては、右胸部を数cm切開するだけでよい小切開心臓手術が行われるようになり、当院でも僧帽弁手術において積極的にこの方法を取り入れています。美容面の利点のみならず、術後の回復が早く、痛みの少ない手術として患者さまに好評です。

この4月から、日本でも手術支援ロボット(ダヴィンチ)を使用した弁形成手術が保険で認められるようになりました。米国では、ダヴィンチを使用した僧帽弁形成術は一般的な手術術式になりつつあり、日本でも普及することが予想されます。当院はロボット心臓手術関連学会協議会で認定された数少ない施設となっています。様々な研修を終え、当院では6月からダヴィンチ支援下僧帽弁形成術を開始しました。ダヴィンチは高解像度3D画像、可動域の大きな関節機能、手振れ防止機能等が搭載されており、非常にきめ細かな手術ができます。

(心臓血管外科 高橋洋介 柴田利彦)



手術支援ロボット(ダヴィンチ)を操作



ダヴィンチ支援手術中の風景

院内学級のご紹介と心肺蘇生講習会

当院には、大阪府立光陽支援学校の分教室として院内学級があります。

当院に入院中で、主治医の学習許可のある小・中学生が、退院後スムーズに復学できるように学習の支援をしています。

院内学級の教員は年に一度、心肺蘇生講習会の受講が義務付けられており、今年度は、2018年6月19日にスキルスシミュレーションセンターで開催されました。



院内学級

インストラクターは、定期的に心肺蘇生講習会を開催している本学医学部サークルであるライフサポートクラブの学生さんで、受講した教員からは様々な場面を想定した質問があり、有意義な講習会となりました。

これからも入院中のお子さんには、体調に合わせて安心して学んでいただけるよう、取り組んで参ります。

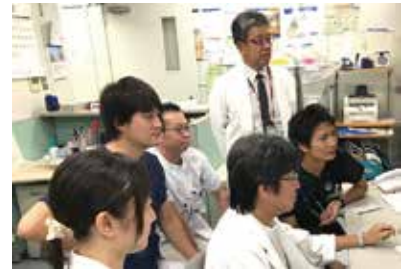
(スキルスシミュレーションセンター)



心肺蘇生講習会の様子

シリーズ **診 療 科 紹 介** **総合診療センター**

総合診療センターでは、症状の原因がはっきりしない患者さまに対して、きめ細やかな医療面接を含め多角的な視点から診断を行っております。外来患者数延べ7808名、入院患者数延べ103名と多数の患者さまの診療にあたり、発熱や倦怠感といった全身的な症状から、膿瘍、成人Still病、リウマチ性多発筋痛症、RS3PE症候群といった病気を確定してきました。当センターで初期治療を行う場合もありますが、専門的診療や継続的治療が必要な場合は、院内外を問わず連携しながら診療を進めております。



「病だけでなく人も診る」姿勢を大切にしています

また、総合診療では、診断学とともに「病だけでなく人も診る」姿勢が解決の糸口になることが多々あります。その大切さを若手医師にも日々指導しております。

お困りの際は、かかりつけのお医者様に当センターへの受診をぜひご相談下さい。



シリーズ **第9回**

～認定看護師の活動について～

当院では、専門的な知識と視点を持つ認定看護師・専門看護師が協力しながら対応・活動しています。

集中ケア認定看護師の役割は、人工呼吸器や多くの薬剤による集中的な治療を必要とされる患者さまが、安全安楽に闘病できるように援助することにあります。例えば、人工呼吸器を使用している時期は、ご自分で歩いたり、自由に寝返りを打つことができません。しかし、この状態では筋力が低下し、リハビリに時間がかかるため退院が遅れるということにもつながります。そこで、重症な時期であっても退院後の生活を見据え、早期回復に向けたリハビリを行えるか、どのようなリハビリが効果的か、などを医師や理学療法士と話し合い、援助の内容やタイミングなどを考え実践していきます。患者さまが重症な時期を乗り越え、できるだけ早く回復できるように、日々努めています。



ICU(集中治療室)の様子

認定看護師とは、公益社団法人日本看護協会の認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することが認められた者をいいます。
 ※公益社団法人日本看護協会ホームページから引用 <http://nintei.nurse.or.jp/nursing/qualification/cn>

**院内
イベント情報**



※日程及びイベント内容については変更する場合がございます。予めご了承のほどお願い申し上げます。

相愛大学による
コンサート(演奏)

日時 平成30年10月25日(木)
 時間 15:45~16:30
 場所 病院5階講堂



ボランティアグループ ブレンドエナジー クワイアによる
コンサート(演奏・合唱)

日時 平成30年11月15日(木)
 時間 15:00~16:00
 場所 病院5階講堂



化学実験 大阪科学技術館による
サイエンスマジックショー

日時 平成30年11月22日(木)
 時間 13:00~14:00
 場所 病院18階第4会議室



ボランティアグループ はりねずみによる
お正月グッズ作り(ワークショップ)

日時 平成30年11月29日(木)
 時間 13:00~15:00
 場所 病院18階第4会議室



発行 / 大阪市立大学医学部附属病院

<http://www.hosp.med.osaka-cu.ac.jp/>

所在地：〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1丁目5番7号
 電話：(06)6645-2121 (代表)

初診受付時間：午前9時～午前10時30分
 休診日：土・日・祝日、12月29日～1月3日